

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 64
2021.8

TOPICS

1

国連平和大学との協定締結式典を開催



本学と中米コスタリカの首都サンホセ市にある国連平和大学(UPEACE)は生態系と地球の健康に資するSDGsの達成に貢献するため、7月20日、MoU(包括連携協定)を締結し、8月19日、協定締結式典を開催しました。

本学からは、榎野博史学長、舟橋弘晃理事(教学担当)・総括副学長、横井篤文 首席副学長(特命(グローバル・エンゲージメント戦略)担当)・ユネスコチェア「持続可能な開発のための研究と教育」チェアホルダー、地球憲章国際審議会委員(在、国連平和大学)および鈴木孝義副学長(国際担当)らが出席。UPEACEからはフランシスコ・ロハス・アラベナ学長、ファン・カルロス・サインスボルゴ副学長らが出席しました。今回の協定締結をきっかけに、SDGs達成に向けて、持続可能な開発のための教育(ESD)と地球市民教育(GCED)ならびに地球憲章(Earth Charter)の3つを統合した取組を行うとともに、岡山市とサンホセ市を交えた包括的な人材育成および社会貢献事業等を推進してまいります。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10476.html



TOPICS

2

岡山大学・米務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」 夏期オンラインコース閉講式を挙

本学は、全米から選抜された32人の大学生・大学院生を対象に実施した日本語と日本文化を集中的に学ぶ米務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」夏期オンラインコースの終了にあたり、8月7日に閉講式を挙りました。閉講式は、本学及びプログラム関係者と参加学生をテレビ会議システムでつなげて実施。

榎野博史学長はビデオメッセージで、「国境を越えて、人と人の議論によって形成した「和の精神」の経験が、実りある経験となりますように、皆さんの将来に期待しています」と式辞を述べました。

各クラスの代表4人から、プログラムを通して学んだことと関係者への感謝の言葉が述べられ、サプライズビデオを鑑賞するなどして、思い出を振り返りました。本学プログラム関係者のあいさつ及びアメリカン・カウンシルズのCLS日本プログラムオフィサーのキムセジョン氏から本学関係者への謝辞があり、最後に横井上席副学長・ユネスコチェアホルダーからのあいさつで8週間のプログラムを終了しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10465.html



Pick up!

岡山大学シーズ集を公開しました！



本学は8月3日、社会実装につながる期待が高いシーズについてわかりやすく記載した「岡山大学シーズ集」を公開しました。

本シーズ集は随時更新・拡充してゆく予定であり、今回は第一弾として、59研究室のシーズを公開しました。

共同研究や受託研究などのご検討にぜひご活用ください。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10451.html



TOPICS

3

アプリ版に続き、ウェブ版『岡大メディア(OTD)』をリリース！ 岡大生による岡大生のための情報を発信します！

ノーコード開発で話題の大学公認の情報発信メディア『岡大メディア(OTD)』がLP(ランディングページ)を充実させ、ウェブ版『岡大メディア(OTD)』として6月28日、一般公開されました。

ウェブ版『岡大メディア(OTD)』は、令和3年3月18日にリリースしたアプリ版『岡大メディア(OTD)』と連携を取っており、いずれも岡山大学SDGsアンバサダーに所属する久保駿貴さん(令和2年度理学部卒業、株式会社ABABA CEO)がノーコードで開発したものです。ウェブ版はOTDの運営メンバーである学生が取材・編集したオリジナル記事を中心に掲載しています。

サイト内では、「岡大生の恋愛観」や「オモシロ岡大生」といったコーナーもあり、岡大生のリアルな声を発信しています。アプリ版に加え、ウェブでも閲覧可能となったことで、より多くの方々に岡山大学の魅力を発信することが出来ると期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10444.html



TOPICS

4

岡山県立岡山一宮高等学校・理数科の2年生11人が来学し、 榎野学長を表敬訪問



7月29日、岡山県立岡山一宮高等学校・理数科の2年生11人が来学し、榎野学長を表敬訪問しました。高校生らは、9月15日～17日に本学工学部にて主催される「SDGs Seminar 2021 Autumn」に参加し、英語で演示実験も行う予定です。このセミナーには、マレーシア・INTEC教育大学、岡山一宮高等学校が参加し、他には類のない国際高大連携事業として開催します。高校生らは本学SDGsアンバサダーにも就任し、今後も世界とつながる活動を岡山大学とともに行う予定です。

同日に行われた本学記者発表「岡山から発信！ 高大連携でマレーシアにオンラインで化学実験を」でも英語で説明を行いながら、入浴剤をつくる実験も披露しました。9月のセミナーでは、本学工学部・自然科学研究科・ヘルスシステム統合科学研究科の学生も指導補助として参加し、安全でさらにわかりやすい実験を目指します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10445.html

PRESS
RELEASE

武田／モデルナ社新型コロナワクチン 1回目接種後副反応調査中間報告

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種に関して、一般の方へ正確な情報提供を行うことを目的に、大学拠点接種として岡山大学で行われた、武田／モデルナ社新型コロナワクチンの副反応調査を実施しました。岡山大学教職員及び学生の計3,794名が1回目接種後の副反応調査に回答しました(8月6日回答分まで)。

結果は、接種部位の局所反応として痛みが91.5%、腫脹が39.6%で出現。接種7日目頃に接種部位に出現する遅延型皮膚反応に一致した症状が2～3日前後に出現していました。

また、全身反応として、筋肉痛が59.4%、倦怠感が48.5%、頭痛が29.7%の順に多く、発熱は23.0%で出現していました。

副反応に対して、20.1%が解熱鎮痛剤を使用。若年世代における発熱の出現頻度が高い傾向にあり、基礎疾患やアレルギー歴の有無は発熱の出現頻度と関連は認められませんでした。武田／モデルナ社ワクチンの副反応出現率は、岡山県内の5病院で実施したファイザーワクチンの1回目接種後副反応調査結果よりも高く、20歳以下の対象者に絞った場合でも同様の傾向が見られました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id868.html



頼藤教授

